

いくつ・何番・何枚 温度 方角 長さ 重さ かさ

いくつ・何番・何枚

これら数を表す言葉も、色々な教材に載っているでしょう。生活していく上で優先順位の高いものを選びましたが、余力があれば他の例もご紹介ください。

## 温度

温度の読み方が分かれば、天気予報を聞いても理解できるはずです。また病院を受診するときでも、普段から自分の平熱（へいねつ）を言えるようになっておくと安心ですね。体温・気温・水温を載せましたが、知っている漢字から推測できるでしょうか、チャレンジしてもらおうといいですね。

温度の読み方は、テレビやラジオの放送局によってもまた年齢層によっても違い、統一された見解はないようです。副教材に載せた 36,5°C（さんじゅうろくてんごど）と 36 度 5 分（さんじゅうろくごぶ）はどちらが正しいということではなく、両方の読み方があることをご紹介しました。ただ、聞いて分かりやすい読み方を踏襲しているとか、気温と体温を区別したほうがいいのではないかという意向が働いているようです。

## 方角

方角の基本的な読み方を覚えて、質問が出たら 4 方向をまとめて東西南北（とうざいなんぼく）と言うことにも触れてもらったらいいでしょう。国によってこの言い方も違いますし、お互い言い合いすると会話が弾みます。また日本に長く住んでいると、建物や駅の西口とか東口という言い方も聞いたことがあると思います。気分転換に「滋賀県の北は何県ですか」とか、「日本で一番南にあるのは何県ですか」のようなクイズもいいと思います。

## 長さ

家具や家電またはカーテン購入時等で必要な長さを言いたい時に、筆談ではなく言えるといいですね。宅配便を利用する時も、重さと共に「たて・よこ・たかさ」の合計でランクが決まる場合があります。生活に必要な知識として覚えておいてほしいです。単位としてミリ（メートル）mm、センチ（メートル）cm、メートル m、キロ（メートル）km の読み方も分かればすぐ使えるでしょう。

## 重さ

生活でよく使うキロ（グラム）kg とグラム g で、対面で肉を買う時以外は必要ないかもしれません。このページの数字は、滋賀県では車を運転する人も多いことから、時速 40km、〇〇まで 10km 等日常生活でよく目にしていると思います。また、自身の身長や体重に関しても言えると役に立ちます。

## かさ

国語辞典（明鏡）によると、「かさ」は物の大きさや分量。体積。容積。とあります。同じく「容積」の項では、1. 容器の中に入り得る分量。容量。2. 立体が占めている空間の量。体積。とあり、容積と体積の両方の意味で「容積」が使われていることがわかります。また「体積」では、空間の中で占める大きさ。との説明があります。ですから、厚みのある容器ではその内側に入り得る分量が容積で、容器の外側を計って求められる大きさが体積ということになります。

この副教材に「かさ」を載せたのは、日本語として嵩高（かさだか）嵩張る（かさばる）の言葉もあり、「容積」「体積」どちらかについてだけでなく、両方のことにふれたいと考えたからです。因みに、容積を表す単位は、l(リットル)や ml(ミリリットル)や cc(シーシー)等です。体積を表す単位は、cm<sup>3</sup> (立法センチメートル) や m<sup>3</sup> (立方メートル) で表記します。日常生活でよく目にする小さいペットボトルや大きい水の容器等に、内容量として 500ml・2L 等と書かれていますが、これらが難なく（ごひゃくミリ・にリットル）と読めたらいいですね。ガソリン価格に関しては L(ℓ)リッターと言うケースも多いようです。

## 自己紹介

簡単な言葉を覚えたら、絵や文を頼りに自分のことを少し話してもらいましょう。家族の構成員の名称は紹介しましたが、プライバシー保護の観点から必要に応じて練習して頂ければと思います。友達の紹介のページでは、「ふつうーていねい」「自分ー友達」と、在留カードの時の説明のような理解で十分だと思います。日本で生活して日本語を勉強していると、家の外では丁寧に対応されるため、自然と「内と外」の関係に気づいてくるものです。その雰囲気について上手く表現できないレベルであっても、なんとなく感じ取っているはずです。当然、そこで使われる言葉が違うことも。外国語を学習し始めたとき、「どういう言葉か説明できないけれど理解出来た」という印象を持たれた方は多いと思いますが、似たような感覚だと思います。

講師側も「この言葉はテキストで未習だから使ってはいけない」などとブレーキをかけないで、学習者の理解度を見極めながら、未知の言葉を小出しにし、少しずつレベルを上げる姿勢は大切なのではないかと考えています。

## 私の一日

日常生活でよく使う動詞 V を右ページに、「V-ます形」とグループ分け (①②③) を紹介しました。左ページには「V-ます形」一つだけ使った文や「Vーて、Vーます」「V-たり V-たりします」のかたちを載せました。質問が出たら動詞表(p.52)で「V-て形」「V-た形」を確認してもらおうと分かりやすいかもしれません。

## 動詞・形容詞

簡単なペアで使える動詞「V-ます形」と身近な形容詞「い-A」の紹介です。先ず文の中の動詞の位置と働き、それに動詞のグループ、形容詞の働きを理解してもらうのが狙いです。大抵の主教材には、動詞も形容詞「い/な-A」の現在形(非過去)・過去形とそれぞれの肯定・否定形が取り上げられていると思いますので、詳しい活用などはそちらをご参照ください。

## 疑問の言葉

この両ページは活用範囲がとても広いと考えています。

### 何(なに・なん)

単独で使う場合は「何(なん)ですか」が多いと思いますが、「何が好きですか」「何がいいですか」「何(なに)に使いますか(役所での証明書の使用目的)」のような場合もあります。

### 誰(だれ)

この言葉自体は直ぐ理解できるでしょう。しかし、実社会では丁寧な言葉として、どちら・どちら様・どなた・などが使われており、少し練習が必要かもしれません。レストランや店では、「次は誰ですか」の意味で「次(にお待ち)の方?」と言われることもあります。実際に以前学習者から受けた質問ですが、それは「～の方(かた)」と自分を指して言っているようだけれど、どう意味なのか知りたいという内容でした。名前が分からない人を指して「この人・その人・あの人」の丁寧な言い方として、「こちらの方・そちらの方・あちらの方」があると説明したら納得してもらえましたが、確かに難しいですね。

### いつ

いつに関しては、年月日(p.12)や時間(p.14)でも触れています。時間については頻繁に練習しないと身に付かないと感じております。工夫を凝らして学習者が使えるように、絶えず刺激をお願いしたいです。

### どれ

こ・そ・あ・ど(p.18)と重複している内容です。余力があれば、丁寧な言葉として「(こちら・そちら・あちら)・どちら」をご紹介ください。たくさん紹介すると混乱を招く場合があるので、学習者の理解度に応じた提出が必要かと思います。

### どちら

この言葉は、二者択一の際に使われます。何かを比べる時、二つはどちら・どちらの～、三つ以上はどれ・どの～、不特定多数の場合は何(なに)が使われます。比べる名詞によって、何(なに)・誰(だれ)・どこ等使い分けています。

「野球とサッカーと、どちらが好きですか」「野球とサッカーとラグビーでは、どれが（どのスポーツ）が好きですか」「スポーツの中で、何が一番好きですか」等です。

## どこ

この言葉も、こ・そ・あ・ど (p.18) とその右ページ (p.19) に載っています。テキストによっては、最初の頃に「国はどこ」「お国はどちらですか」を練習に入れているものもあります。この時はこの表現と割り切ってしまうえば大丈夫です。しかし理解できる語彙が少ない間は、あまり教えなすぎないことも大切だと感じています。

## どう

これは感想を求められている場合が多く、簡単な形容詞で答えられるでしょう。しかし近所の人同士の「最近どう?」「うん、まあまあ」という会話を聞いた初級の学習者は、覚えた言葉以外の会話で分からなかったそうです。次の「どんな」も既習語彙を使って簡単な感想を述べる程度でいいと思います。

## どんな

ここでは「どんな」+名詞でその種類を聞いています。もちろん、「どんな音楽が好きですか。」と聞かれて「ロック」や「クラシック」と答えても、「静かな音楽が好きです」と答えてもいいのです。（このような回答を意識しているテキストもあります）

また、「どんな」+名詞で、上記の「どう」と同様に形容詞で答えられます。「〇〇さんはどんな人ですか。」その答えとして「やさしい人です」「親切です」等です。しかしそれ以上の練習を盛り込むと、初級レベルでは表現しにくいのが現実です。例えば「滋賀県はどんなところですか」と聞かれたら、どう答えるでしょう。質問自体はとても簡単なのですが、「日本で一番広い湖があって、山も近くにあり・・・」と、中上級者でも「きれいです」の一言では言い表せない場合がおおいです。ですから練習する際は、学習者のレベルに応じた既習語彙を使って答えられる範囲に質問を絞り、答えやすい工夫などの配慮は必要だと感じています。

## どうやって

どうやって（やり方）を尋ねる言葉です。テキストによっては、「どのように」「どうして」を採用しているものもあります。文字の書き方を例にしましたが、日本語学習では頻繁に使うので、授業でも自然な流れで話して頂けたらいいと思います。

## どのくらい

例に挙げた会話では距離（長さ）と所要時間を問題にしていますが、これ以外に量の場合もあります。質問が出たら、臨機応変にご対応をお願いしたいと思います。

## どうして(なぜ)

これは理由を聞く言い方です。日常生活では関西弁の「なんで？」を頻繁に耳にすることでしょう。その言葉の意味が分かればストレスは減るので、学習者からの疑問には答えて差し上げてください。

## ～なければなりません

「V-ない形」の基本的な使い方を載せました。例として標識を取り上げましたが、他にも規則や法律などを練習にすると分かりやすいでしょう。理解が進めば、自分のすべきことやしたほうがいいことにも使えることをご紹介します。「来月試験があるので、もっと勉強しなければなりません」や、「友達が来るので、料理を作らなければなりません」などです。

## ～ないでください

「V-ない形」の練習です。ここでは禁止項目が紹介されていますが、厳しい内容だけでなく、ちょっとした注意や、少し慣れたら日常生活ではアドバイス(助言)でも使うことを覚えて欲しいです。「遅れないでください」「忘れないでくださいね」「あまり無理しないでください」等です。

## 何をするのが好きですか

ここでは「動詞(V-じしよ形)+のが好きです」と「名詞(N)が好きです」を紹介しました。また簡単な勧誘練習に、「動詞(V-ます形)+に行きませんか」と「名詞(N)に行きませんか」も載せました。例文としては、「スキーをするのが好きです。スキーが好きです。スキーをしに行きませんか。スキーに行きませんか」です。

滋賀県は、1年を通じて楽しめるスポーツやレジャー施設が実に豊富にあります。趣味や余暇の過ごし方の会話練習に使えそうな言葉にも目をお通しいただき、是非ご活用ください。余談ですが、ピワイチ(びわ湖一周サイクリングロード)は、国土交通省により第一次ナショナルサイクルロード(日本を代表し、世界に誇りうるサイクリングロード)に指定されています。

## ～てください(依頼・指示)

「V-て形」の練習です。誰かに何かを依頼する時、名詞を使って「お願いします」や「ください」を早い段階で練習します。またはテキストによっては教室で使う日本語として、「読んでください」「聞いてください」等が最初に紹介されていることがあります。ここでは、「名詞(N)をください」→「動詞(V-て形)ください」「名詞(N)をください」の文を少し応用したレベルで動作(動詞を使って)依頼することだと理解していただければいいと思います。

クラス内の指示として挙げました。動詞て形の下番号①～③は、動詞のグループ分け①

②③です。関心がある学習者には動詞表のページ(p.52)を開いて、動詞には「V-て形」の欄を使って「～てください」と言えば、依頼や指示が出来ることをお示してください。練習の際には、動詞に少しずつ言葉を付け加えて、文レベルで理解出来るようにしてみてください。

#### ～てもいいですか(許可)

同じく「V-て形」を使った練習です。最初は「空いている席に座る」「パンフレットをもらう」設定で、ジェスチャーを交えながら「すみません、いいですか。」を紹介する。理解出来たら、「座ってもいいですか→ここに座ってもいいですか。」「これ、いいですか→このパンフレット(を)、もらってもいいですか。」等と許可の練習が出来たらいいと考えている。

#### あいさつ

これは授業の早い段階で、覚えて使って欲しいです。ここでも、「おはよう」「おはようございます」の使い分けに気づいてくれたら嬉しいです。

#### 覚えて使おう

身近な会話例を紹介しました。紹介例以外にも色々な言い方があるので、教師が自分の使う言葉で練習してください。絵を使い少し工夫するだけで、応用は広がります。

#### どんな気持ち？

自分の気持ちを伝える手段として活用して頂きたいです。形容詞だけでなく、言葉を繋げて前後関係を説明することも可能です。

#### あいづち・つばやき

日本語の「あいづち」や「つばやき」を使いこなすのは難しいでしょう。最初は周囲の人が話しているのを聞いて使い方に慣れてもらうのが一番です。実際のコミュニケーションの場では、身振り手振りや表情に加えて「あいづち」が重要な役割を果たしていることに気づくと思います。ただ時と場合に寄りますが、質問が出たら、「はいはい！」などと多用すると失礼に当たることにも触れる必要があるかもしれません。

#### 動詞表

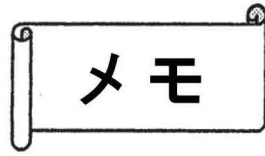
動詞表は先ず全体を眺めて、学習者に動詞にはどのような種類があるのか、その違いはどのようなところなのかを聞いてください。最初の段階では、①②③グループ(他の教材ではI II III・u/ru/irr-verb等の分類)があることが分かれば十分です。

そして①グループはa・i・u・e・oの音を含んで活用すること、②グループはiかeの音を含むこと、③グループはそのどちらにも属さない不規則な活用をすることが理解出来れば素晴らしいです。

ない形・ます形・じしょ形・て形などはその欄を横に見れば、他の動詞の活用形が載っていることが分かるでしょう。そして、例えば一番左に「聞く」の欄の下に「書く・働く・歩く」がありますが、「書く」の「て形」は？と聞いて「書いて（ください）」と言えたら、活用の仕組みが理解出来ている証拠です。

「依頼」の時には「～てください」の「V-て形」を使い、「禁止」の意味や義務の時は「V-ない形」を使うのだということが分かれば大丈夫でしょう。

学習者がスマホ等で意味を調べたい時は「辞書形」なので、載せてあります。例外の「行く・行って（V-て形）」に関しては、今回は掲載していません。



A series of horizontal dashed lines for writing, spanning most of the page width.

